事業活動の成果【アウトカム】

成果指標	想定される事業活動の成果		活動成果の達成度を測る指標		単位	目指す方向性	R	4	目標実績	R	5	目標実績	R	6	目標実績	達成度	左記の指標が設定できない場合は、事業実施によって評価期間内に発現した定性的な成果を記入
	短期成果		指標①														
成果指標	短期成果	優良製品の育成、本市の認知度向上	指標①	ブランド認定事業者数	社	→		20		20		20			目標達成 (100%以上)		
			指標②					18		21		24					
			指標③														

事務事業の評価

所管における事務事業の評価	自己判定	担当者	目的の妥当性	3		評価点ランク		A	事業遂行に係る工夫点・事業成果		
				S	11 ~ 12	A	9 ~ 10				
所管における事務事業の評価	自己判定	妥当性	市民・社会ニーズへの対応	4 上位施策の達成に不可欠な事務事業であり、事業の目的を見直す必要はない	3	S	11 ~ 12	A	認定後の継続的な支援とPR施策（オンラインツアーや・物産店、SNSによる情報発信）		
			サービス主体の妥当性	3 上位施策の達成に必要な事務事業であり、事業の目的を見直す余地が少ない	3	A	9 ~ 10				
			成果指標の達成状況	2 上位施策の達成に必要な事務事業であるが、事業の目的は検討の必要がある	4	B	7 ~ 8				
		有効性	成果向上の可能性	1 上位施策の達成に向け、事業の目的は見直しが必要である	4	C	5 ~ 6				
			市民等への影響	4 市民ニーズ・社会ニーズの有無に関わらず、実施する必要がある	2	D	3 ~ 4				
			手段の最適性	3 全体的な市民ニーズ・社会ニーズが増加傾向にある	3	S	11 ~ 12				
	一次判定	効率性	コストの最適性	2 全体的な市民ニーズ・社会ニーズが現状維持傾向にある。又は、市民ニーズ・社会ニーズが限定的である	3	A	9 ~ 10	A	事業遂行に係る課題・改善点		
			受益の適正性	1 市民ニーズ・社会ニーズが減少傾向にある。又は、市民ニーズ・社会ニーズが曖昧である	2	B	7 ~ 8				
			自己判定結果の確定	4 本事業は市が直営で実施すべきものである	3	C	5 ~ 6				
		貢献度	重要度	3 本事業の一部、又は、全部に民間活力を導入すべきで、適切に導入している	2	D	3 ~ 4			B	認定品及び認定制度の認知度不足と認定後のブランド価値の維持、向上。更に充実したフォロー体制とマーケティングの支援を強化することが必要。
			重要度	2 本事業の一部、又は、全部に民間活力を導入すべきで、導入の範囲に検討の余地がある	3	A	9 ~ 10				
			重要度	1 本事業の一部、又は、全部に民間活力を導入すべきだが、導入できていない	2	B	7 ~ 8				
所属長	一次判定	重要度	課題解決に向けた具体的な方策等	4 目標を上回って達成できた（100%以上の達成）	3	C	5 ~ 6	A	課題解決に向けた具体的な方策等		
			重要度	3 概ね達成できた（80%以上の達成）	3	D	3 ~ 4				
			重要度	2 やや達成できなかった（50%以上の達成）	4	S	11 ~ 12				
所管における事務事業の評価	一次判定	効率性	コストの最適性	1 達成できなかった（50%未満の達成）	3	A	9 ~ 10	A	認知度向上のための広報・PR活動の強化。認定制度の知名度向上と信頼性の確保のためロゴの積極的利用と活用。ブランド価値向上のため定期的なフォローできる体制作り。商品改良やマーケティング支援。		
			受益の適正性	4 既に相応の成果を得ているが、今後も成果向上の余地がある	3	B	7 ~ 8				
			自己判定結果の確定	3 成果向上が期待でき、事業継続の必要がある	3	C	5 ~ 6				
		貢献度	重要度	2 成果は低調であるが、手法等の改善によって成果向上の余地がある	2	D	3 ~ 4			A	所属長の所見
			重要度	1 今後の成果向上は見込めない	3	S	11 ~ 12				
			重要度	4 本事業がなくなると、不特定多数の市民・団体等に重大な影響がある	3	A	9 ~ 10				
	所属長	一次判定	重要度	手段の最適性	3 本事業がなくなると、特定の市民・団体等に重大な影響がある	3	B	7 ~ 8	A	認定したブランド認定品も40品になり、市内事業者への認知度と協力体制は構築できてきている。「伊予市ブランド認定品」というブランド力を更に向上させるためにも、露出される機会を増やす必要がある。今後も各種イベントに出展するとともに、ふるさと納税返礼品での取り扱いやシティプロモーションサイトなどメディアを活用しての魅力の発信が重要になってくる	
				自己判定結果の確定	2 本事業をなくしても、市民・団体等への影響は少ない	3	C	5 ~ 6			
				自己判定結果の確定	1 本事業をなくしても、市民・団体等への影響はほとんどない	4	D	3 ~ 4			
		貢献度	重要度	4 現状では最善の手段であり、他の手段を検討する必要はない	3	S	11 ~ 12	A			所属長の所見
			重要度	3 他の手段もあるが、現状の手段が望ましく、改善の必要性は低い	3	A	9 ~ 10				
			重要度	2 現状の手段が望ましいとは言えないため、他の手段を検討すべきである	3	B	7 ~ 8				
所属長	一次判定	重要度	コストの最適性	1 現状の手段ではなく、他の手段に変更すべきである	3	C	5 ~ 6	A	所属長の所見		
			自己判定結果の確定	4 コストの削減・効率化の成果により、これ以上、改善の余地はない	3	D	3 ~ 4				
			自己判定結果の確定	3 コストの削減・効率化を適切に進めており、改善の必要性は低い	4	S	11 ~ 12				
	貢献度	重要度	2 コストの削減・効率化に努めているが、成果が十分ではないため、積極的な改善が必要である	3	A	9 ~ 10	A			所属長の所見	
		重要度	1 コストの削減・効率化の成果が全く得られておらず、抜本的な改善が必要である	3	B	7 ~ 8					
		重要度	4 事業の性質上、受益者負担を求めるとはならない	3	C	5 ~ 6					
所属長	一次判定	重要度	受益の適正性	3 公平なサービスを提供し、適正な受益者負担を求めている	3	D	3 ~ 4	A	所属長の所見		
			自己判定結果の確定	2 ある程度の公平なサービスを提供しているが、受益者負担には見直しの余地がある	3	S	11 ~ 12				
			自己判定結果の確定	1 対象者に偏りがあるなど公平なサービスとはいえない。又は、ある程度の公平なサービスを提供しているが受益者負担をしていない	4	A	9 ~ 10				
	貢献度	重要度	4 事業の性質上、受益者負担を求めるとはならない	3	B	7 ~ 8	A			所属長の所見	
		重要度	3 公平なサービスを提供し、適正な受益者負担を求めている	3	C	5 ~ 6					
		重要度	2 ある程度の公平なサービスを提供しているが、受益者負担には見直しの余地がある	3	D	3 ~ 4					
所属長	一次判定	重要度	手段の最適性	1 対象者に偏りがあるなど公平なサービスとはいえない。又は、ある程度の公平なサービスを提供しているが受益者負担をしていない	3	S	11 ~ 12	A	所属長の所見		
			自己判定結果の確定	4 事業の性質上、受益者負担を求めるとはならない	3	A	9 ~ 10				
			自己判定結果の確定	3 公平なサービスを提供し、適正な受益者負担を求めている	3	B	7 ~ 8				
	貢献度	重要度	2 ある程度の公平なサービスを提供しているが、受益者負担には見直しの余地がある	3	C	5 ~ 6	A			所属長の所見	
		重要度	1 対象者に偏りがあるなど公平なサービスとはいえない。又は、ある程度の公平なサービスを提供しているが受益者負担をしていない	3	D	3 ~ 4					
		重要度	4 事業の性質上、受益者負担を求めるとはならない	3	S	11 ~ 12					